

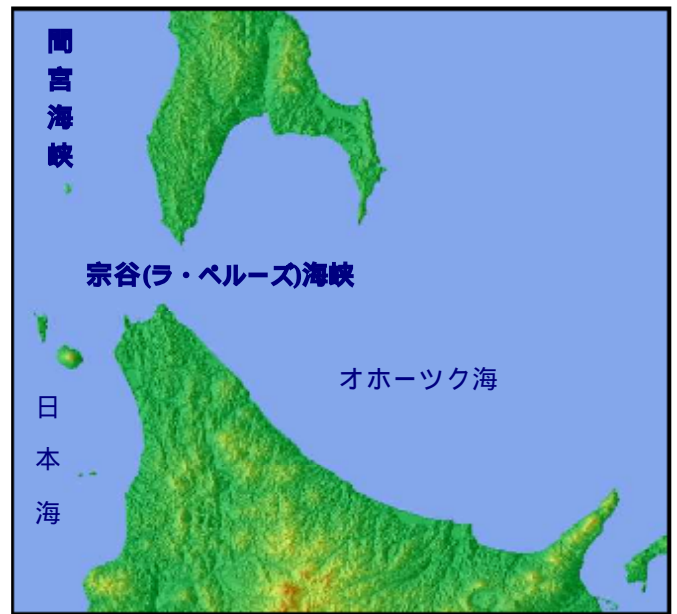
稚内市メモリアル事業に関する事業コンセプト

2008年 市制施行 60年・稚内港開港 60年を経て
2011年 新しい稚内スタート!!

メインテーマ

海

偉大なる先人達の偉業
稚内市の歩み
最北への誘い



本市は、目前の宗谷海峡を挟み、東はオホーツク海、西は日本海に面し、宗谷岬からわずか 43Km の距離にロシア連邦サハリン州を臨む位置にある。その歴史を振り返ると、1685 年の宗谷場所開設のはるか以前から、(アイヌ民族等によって)樺太や利尻・礼文島との交流が盛んに行われて以来、**海**を中心として歴史を刻んでおり、下記に挙げたとおり、言い換えれば**海**との深い係わりや、**海**から受けた恩恵の歴史と言うことができる。

(アイヌ民族による)樺太、利尻及び礼文との往来
宗谷場所開設による沿岸漁業の始まりと交易開始
諸外国及び幕府による樺太探検の広がり
松前・津軽・会津藩等による北方警備
定期航路の開設による樺太移住と終戦

沖合底引漁業の隆盛と漁業専管水域 200 海里
獲る漁業から作り育てる漁業への転換
サハリン州各市との交流促進
サハリン定期航路の再開
航空路線の開設

このような中で、本年(2007年)は、フランス人「ラ・ペルーズ」が宗谷海峡を発見してから 220 年にあたり、2008年(平成 20年)には市制施行 60年・開港 60年を迎える。歴史をさかのぼると、本年を皮切りに、市制施行 60年を経て交通結節点としてのフェリー埠頭や駅前を整備が完了する 2011年までの間、一定の節目(周年)を迎える出来事が多くある。

そこで、これらの出来事を改めて振り返り、2008年の市制施行 60年を軸として、先人の足跡や過去の歴史を再認識すると共に、市民共有の財産として学び伝え、交通の結節点(北の要衝)として、将来に向けた新たな稚内の創造に資するため、市民と協働して稚内市メモリアル事業を展開し地域の活性化に繋げていくこととする。

1. 概要

名称	稚内市メモリアル事業
期間	2007年のラ・ペルーズ宗谷海峡発見220年から市制施行・稚内港開港60年をメインに2011年度までの5年間
テーマ	「海」
キャッチフレーズ	～稚内をふりかえる300年博～ 新たな稚内の創造に向けて
事業骨子	先人たちの偉業 - 間宮林蔵等、先人の偉業に関する事業 市政のあゆみ - 市制施行60年を中心とする事業 最北への誘い - 宗谷岬周辺景観等を中心とする事業
事業手法	庁内検討委員会による事業方向等の検討 市民を含む検討委員会による事業体系及びメニューの決定 所管課・関係団体等による事業の実施

2. 検討の骨子

先人たちの偉業 = (「海」は探検の舞台) 北方警備

- ・ 1643年、オランダ人ド・フリースが伝説の金銀等を探しに来た際、オホーツクから樺太東岸を通過
- ・ 1787年、フランス人ラ・ペルーズ(世界の三大航海士の1人)が世界一周の探検中に宗谷海峡を通過し、ラ・ペルーズ(宗谷)海峡と命名
- ・ 1794年、イギリス人ブロトンが宗谷海峡と樺太沿岸を調査
- ・ 1805年、ロシア人レザノフらがノシャップへ上陸
- ・ 1785年、庵原弥六らによる樺太調査の実施(大きな成果はなく越冬死)
- ・ 幕府役人・梨本弥五郎による国産第一号のストーブ(クワエヒル)の製造
- ・ 水腫病の特効薬としてのコーヒーの利用
- ・ 1809年、前年の探検に引き続き、間宮林蔵による第2次樺太探検の実施(樺太が島であることを確認)
- ・ 1830年、フランス人地理学者ルクルスが間宮海峡を認める。
- ・ オランダ人シーボルトは、自身が刊行した『日本陸海図帖』に林蔵の樺太図を掲載(間宮海峡の名が世界地図上記載)
- ・ 以後も樺太探検は継続され、「北海道」を命名した松浦武四郎も探検実施

子供たちに、これらの偉業と海を感懐した冒険心を育てたい。

稚内の主産業 = (「海」は豊かな漁場) 漁業

- ・ 明治以前は、宗谷場所を中心として北前船による交易が盛んに行われ、明治・大正期には、ニシン漁を中心に動力船の導入や漁具・技術の向上などにより、漁獲量は増加の一途を辿り、街には人が集まり商店などが作られ賑やかになっていった。
- ・ 昭和に入ると底引網漁業が台頭し、船の大型化とともに漁場も拡大していった。その後全国有数の漁獲量を誇り、昭和 51 年には全国 2 位となる。当時の第一副港前は、魚を満載したトラックがひしめき合う賑やかな光景が見られた。

今、昔の賑わいを取り戻したい。子供たちに当時の海の賑わいを伝えたい。

サハリン州各市・石垣市との交流 = (「海」を越えた友好) 友好都市

- ・ サハリンとの関係も古く、戦前は多くの方が稚内港からサハリンへ渡っている。戦後は、平成 7 年からサハリン定期航路が開設され、ネベリスク市(1972 年)、コルサコフ市(1991 年)、ユジノサハリンスク(2002 年)とそれぞれ友好都市を締結。ユジノサハリンスクには、本市サハリン事務所を開設し、「日ロ友好最先端都市」として重要な役割を担っている。
- ・ 南に目を向ければ、1987 年、日本最南端の石垣市と友好都市提携を行い、以来活発な市民交流が展開され、本年は 20 周年を迎える。(記念事業を予定)

友好は、海を隔ててより強い絆となる。子供たちの将来はもっと・・・。

タロ・ジロの生還 = (「海」に繋がる生命力・自然環境) 南極観測

- ・ 第 1 次南極地域観測隊に参加したカラフト犬や初代観測船「宗谷」の船名等により、本市は南極観測と深いつながり持つこととなり、特に「タロ・ジロ」の奇跡的な生存は、多くの国民に感動を与えた。

初代南極観測船「宗谷」の船名

カラフト犬の訓練を行った稚内公園

タロ・ジロなど樺太犬の記念碑及び供養塔

本市出身者の南極地域観測への参加

第 46 次観測隊への市職員の参加

これらは、本市が第 1 回南極観測以降深い関わりを持っていることを示している。

また、現在の南極観測が地球環境の保護に大きく貢献していることから、地球環境の悪化が問題となっている今日、本市にとって極めて身近な南極観測の果たす大きな役割について子供たちに継承するとともに、環境保護の重要性を発信して行きたい。

海は奇跡を起こす。子供に命の大切さと、命を生んだ海の大きさを伝えたい。

プロローグ 2007 年 ラ・ペルーズ宗谷海峡発見 220 年

エピローグ 2011 年 交通結節点としての都市整備とサハリン 3 市友好都市

提携周年(コルサコフ市 ~ 20 年、ユジノサハリンスク市 ~ 10 年、ネベリスク市 ~ 40 年(2012 年))